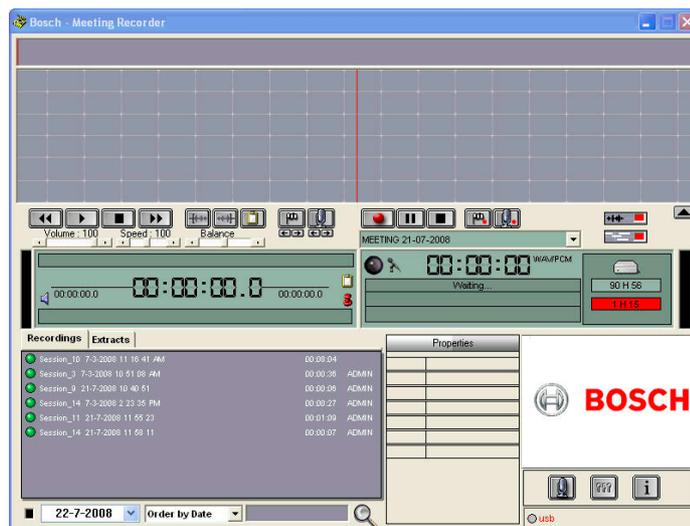


DCN-MR(T) ミーティングレコーダ



ja | インストールおよび操作説明
ミーティングレコーダ



BOSCH

免責事項

Bosch Security Systems

弊社では、このインストールおよび操作説明に含まれる情報およびデータにおける正確性にあらゆる努力を行っておりますが、その内容からいかなる権利も得られるものではありません。

Bosch Security Systems は、これらの提供する情報に関して一切保証するものではありません。

Bosch Security Systems は、いかなる場合においても、契約上の行為であるか、過失またはその他の不法行為であるかにかかわらず、これらのインストールおよび操作説明で提供されている情報の使用に起因または関連する使用不能、データの消失、利益の損失が原因で生じた特別損害、間接損害、派生的損害、その他いかなる損害についても一切責任を負いません。

Microsoft

Windows® は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書について

内容

インストールおよび操作説明により、DCN-MR(T) ミーティングレコーダのインストール、構成、および操作に必要な情報が提供されます。

デジタル版

インストールおよび操作説明は、デジタルファイル (Portable Document Format (PDF)) で入手できます。PDF では、詳細なデータが含まれる項目を参照している場合、その文字をクリックすると参照先に移動できます。このような文字には、ハイパーリンクが含まれています。

目次

免責事項	2
本書について	2
目次	3
1. インストール	5
1.1 PC 要件	5
1.2 アプリケーションのインストール	5
1.3 ライセンスのインストール	5
1.4 起動画面	6
1.5 外部接続	7
2. 構成	9
2.1 概要	9
2.2 ハードウェア構成	10
2.3 ディレクトリ	10
2.4 インターフェイス	11
2.5 外部機器	11
2.6 メインテナンス	13
2.7 言語	13
2.8 セキュリティー	14
2.9 オプション	15
3. 操作	16
3.1 概要	16
3.2 発言者名の録音への手動追加	18
3.3 録音	19
3.4 録音の管理	20
3.5 録音の再生	21
3.6 録音の編集	21
4. 転写	22
4.1 はじめに	22
4.2 設定と前提条件	22
4.3 録音の転写	22

(空白)

1 インストール

1.1 PC 要件

ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアは、次の最小要件を満たすすべての PC にインストールできます。

表 1.1 : 最小要件

オペレーティングシステム :
Windows® 7 Home Premium (32 および 64 ビット) 以上。 または Windows® Vista Home Premium (32 または 64 ビット) 以上。
サウンドカード :
使用するオペレーティングシステムと互換性のあるもの :
USB ポート :
以下の USB ポート : <ul style="list-style-type: none"> • ドングル • DCN-MRFP 転写フットパッド
RS232 ポート :
DCN-CCU (B) または DCN-WCCU 用 RS232 ポート : <ul style="list-style-type: none"> • DCN (ワイヤレス) マイク
イーサネットポート :
DCN-CCU (B) 2 用イーサネットポート



注記

PC に RS232 ポートがない場合、RS232-USB 変換用コンバータ (別売) を使用して、マイク動作信号を空いている USB ポートに接続できます。
転写目的の場合、マイク動作信号は不要です。この場合、空いている USB ポートに、DCN-MRFP フットパッドを接続できます。

1.2 アプリケーションのインストール

付属の DVD にはミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアが収録されています。

次の手順に従います。

- 1 DVD を PC の DVD ドライブに挿入します。
> DVD が自動的に再生されます。
- 2 画面に表示される指示に従います。

DVD が自動的に再生されない場合は、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] に進みます。
- 2 「X:\index.html」と入力します (「X」は、お使いの DVD ドライブ文字に置き換えてください)。
> DVD が再生されます。
- 3 画面に表示される指示に従います。

1.3 ライセンスのインストール

付属のドングルには、ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアのライセンスが含まれています。ドングルを接続しない場合、アプリケーションのデモモードしか使用できません。

表 1.2 : ライセンス

青いラベルの USB ドングル	黄色いラベルの USB ドングル
DCN-MR : 録音および録音内容の再生、編集、転写のフルライセンス	DCN-MRT : 録音内容の再生、編集、転写の限定ライセンス

次の手順に従います。

- 1 PC の電源を入れます。
- 2 ミーティングレコーダアプリケーションをすでに実行している場合は、一度アプリケーションを終了します。
- 3 ドングルを空いている USB ポートに接続します。
> PC が 1 分以内にドングルを検出します。

注意 : 初めてドングルを接続すると、ミーティングレコーダソフトウェアがランダムな保守パスワードを生成します。このパスワードは、ユーザーが管理者パスワードを忘れた場合、ソフトウェアの復旧に必要になりますので、安全な場所に保存しておいてください。詳細は、第 2.8 章の「セキュリティ」を参照してください。

1.4 起動画面

図 1.1 は、ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアが PC に正しくインストールされると、最初に画面に表示される [ユーザーインターフェイス] ウィンドウです。まず第 1.5 章の手順を実行し、次に、「構成」(第 2 章参照)に記載された方法で構成を変更します。

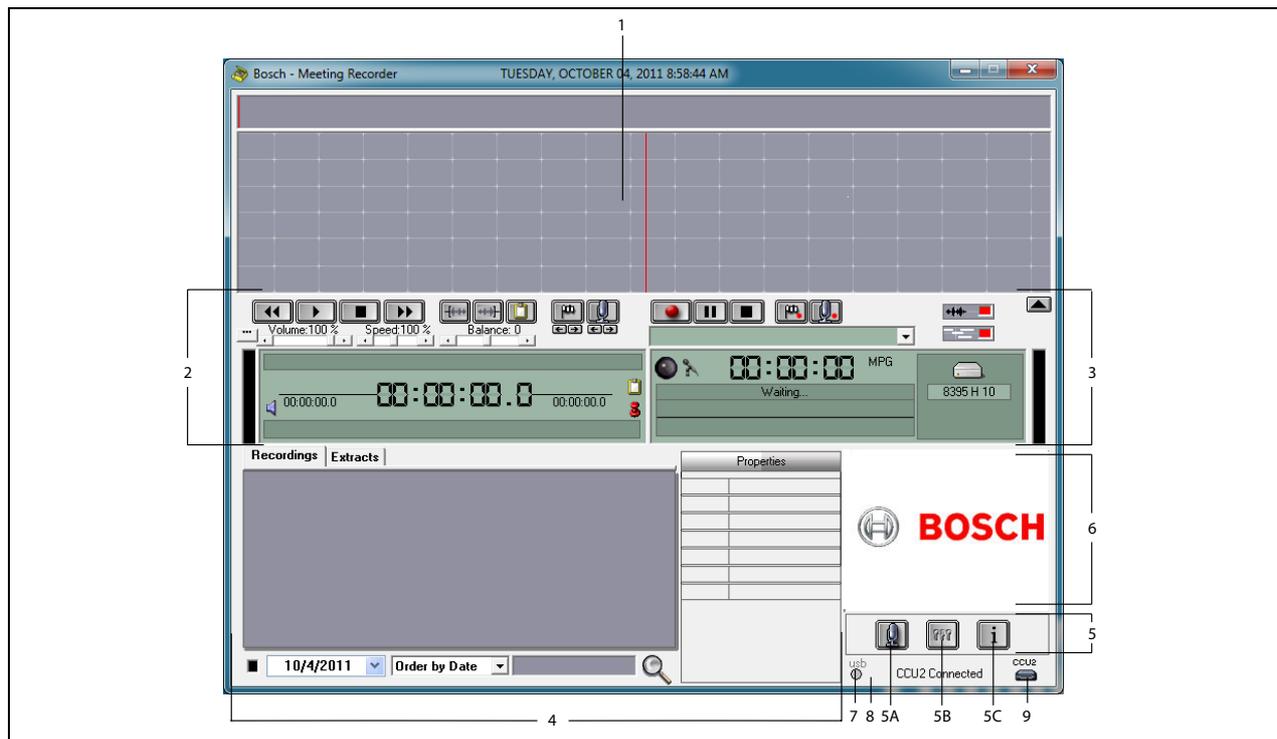


図 1.1 ユーザーインターフェイス

- 1 Visualization セクション - 発言者名とマーカーの情報とともに、録音を視覚化して表示します。
- 2 Playing セクション - 録音を再生および編集したり、録音データベースから抽出 (第 3.5 および 3.6 章参照) することができます。
- 3 録音セクション - 録音を実行できます (第 3.3 章参照)。
- 4 ファイルセクション - 録音されたファイルやディレクトリを表示し、録音データベース内で録音の管理を実行できます (第 3.4 章参照)。
- 5 構成セクション
 - A) マイクボタン - [発言者] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、録音に発言者名を追加することができます (第 3.2 章参照)。
 - B) 構成ボタン - [構成] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、アプリケーションや接続しているハードウェアを構成できます (第 2 章参照)。
- 6 イメージのインポート - マウスを右クリックするとダイアログウィンドウが開き、JPG または BMP 形式のカスタムイメージをインポートできます。
- 7 USB ドングルインジケータ - 青色はドングルがフルライセンスを有していることを示します。黄色は限定ライセンスであることを示します (第 1.3 章参照)。
- 8 USB 接続 - フットパッドが検出されると、「USB」という文字が赤色で表示され、フットパッドが検出されない場合は、この文字がグレーで表示されます (第 1.5.2 章参照)。
- 9 CCU (B) 2 接続 - DCN-CCU (B) 2 (セントラルコントロールユニット) との接続のステータスを表示します。

1.5 外部接続

1.5.1 ハードウェアの接続

不正な動作を回避するために、ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアを使用する前に、すべてのハードウェアを接続して確認することをお勧めします。

1.5.2 フットパッドのインストール

ミーティングレコーダアプリケーションを転写目的で使用する場合、フットパッド (DCN-MRFP、別売) を接続する必要があります。

次の手順に従います。

- 1 PC の電源を入れます。
 - 2 フットパッドを空いている USB ポートに接続します。
- > PC が 1 分以内にフットパッドを検出します。



注記

フットパッドが検出されると、「USB」という文字がメインウィンドウの右下に赤色で表示され、フットパッドが検出されない場合は、この文字がグレーで表示されます。

フットパッドの構成方法については、第 2.5.2 章を参照してください。

1.5.3 CCS への接続

1.5.3.1 一般

CCS センtralユニットのオーディオアウトプットを PC に接続する方法については、図 1.2 を参照してください。オーディオ接続ケーブル (DCN-MR にのみ付属) を使うことができます (図 1.4 を参照)。

1.5.3.2 オーディオ信号

CCS センtralユニットはモノラルオーディオ信号を出力しますが、ミーティングレコーダソフトウェアではステレオオーディオの録音が可能です (第 2.2 章参照)。ミーティングレコーダソフトウェアをステレオ録音用に構成する場合、CSS のモノラルオーディオ信号を、PC の左右両方のオーディオインプットに接続します*。

1.5.4 DCN への接続

1.5.4.1 一般

DCN (ワイヤレス) センtralコントロールユニットやオーディオエキスパンダを PC に接続する方法については、図 1.3 および 1.4 を参照してください。

1.5.4.2 オーディオ信号

DCN センtralコントロールユニットおよびオーディオエキスパンダは、モノラルオーディオ信号を出力しますが、ミーティングレコーダソフトウェアではステレオオーディオの録音が可能です (第 2.2 章参照)。ミーティングレコーダをステレオ録音用に構成すると、1 言語または 2 言語で録音することができます。

- 1 言語録音は、該当するオーディオアウトプットを PC の左右両方のオーディオインプットに接続して実行できます*。
- 2 言語録音 (発言者信号と同時通訳を含む録音など) は、一方のオーディオアウトプットを PC の左側のオーディオインプットに、もう一方のオーディオアウトプットを PC の右側のオーディオインプットに接続して実行できます*。

1.5.4.3 マイクアクティビティ

マイクアクティビティ接続は、LBB4187/00 オープンインターフェイス (別売) を使用して、PC とセンtralコントロールユニット間の通信を行う、オプションのシリアル接続です。

マイクアクティビティ接続により、発言者名を自動的に録音に追加することが可能になります (図 1.3 参照)。

1.5.4.4 DCN コントロールソフトウェア

DCN システムは、さまざまな種類のソフトウェアパッケージでコントロールできます。DCN ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアは、DCN コントロールソフトウェアと同じ PC にインストールして実行できます。ただし、センtralコントロールユニット

と PC 間をそれぞれの RS232 で接続する必要があります (図 1.3 参照)。

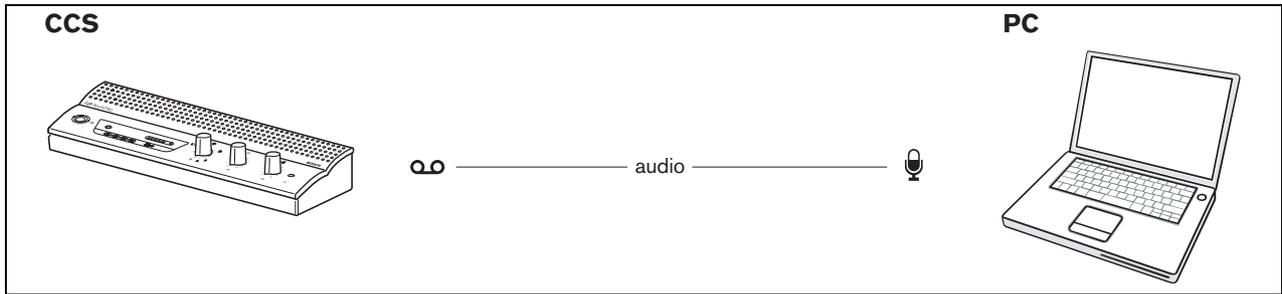


図 1.2 : CCS システムへの接続

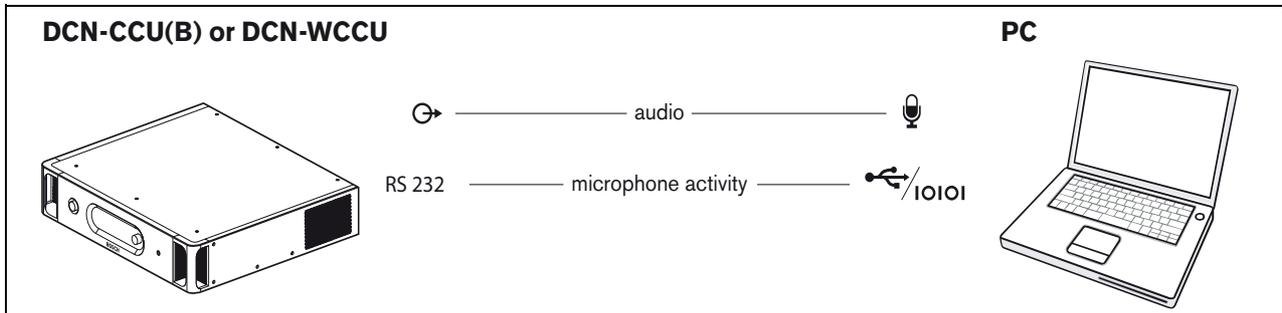


図 1.3 : DCN-CCU (B) または DCN-WCCU システムへの接続

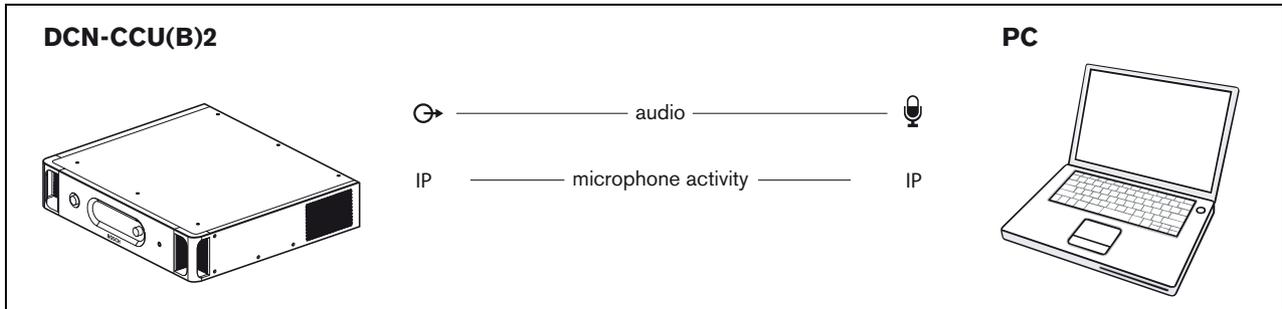


図 1.4 : DCN-CCU (B) 2 システムへの接続

**注記**

図 1.2、1.3 および 1.4 を参照して、オーディオアウトプットを PC のマイク入力に接続します。図 1.5 のようなケーブルアセンブリを使用することができます。



図 1.5 : オーディオ接続ケーブル

2 構成

に表示される構成ボタンをクリックして、[構成] ウィンドウを開きます。

2.1 概要

図 2.1 は、[構成] ウィンドウ内のさまざまなセクションの概要です。[ユーザーインターフェイス] ウィンドウ

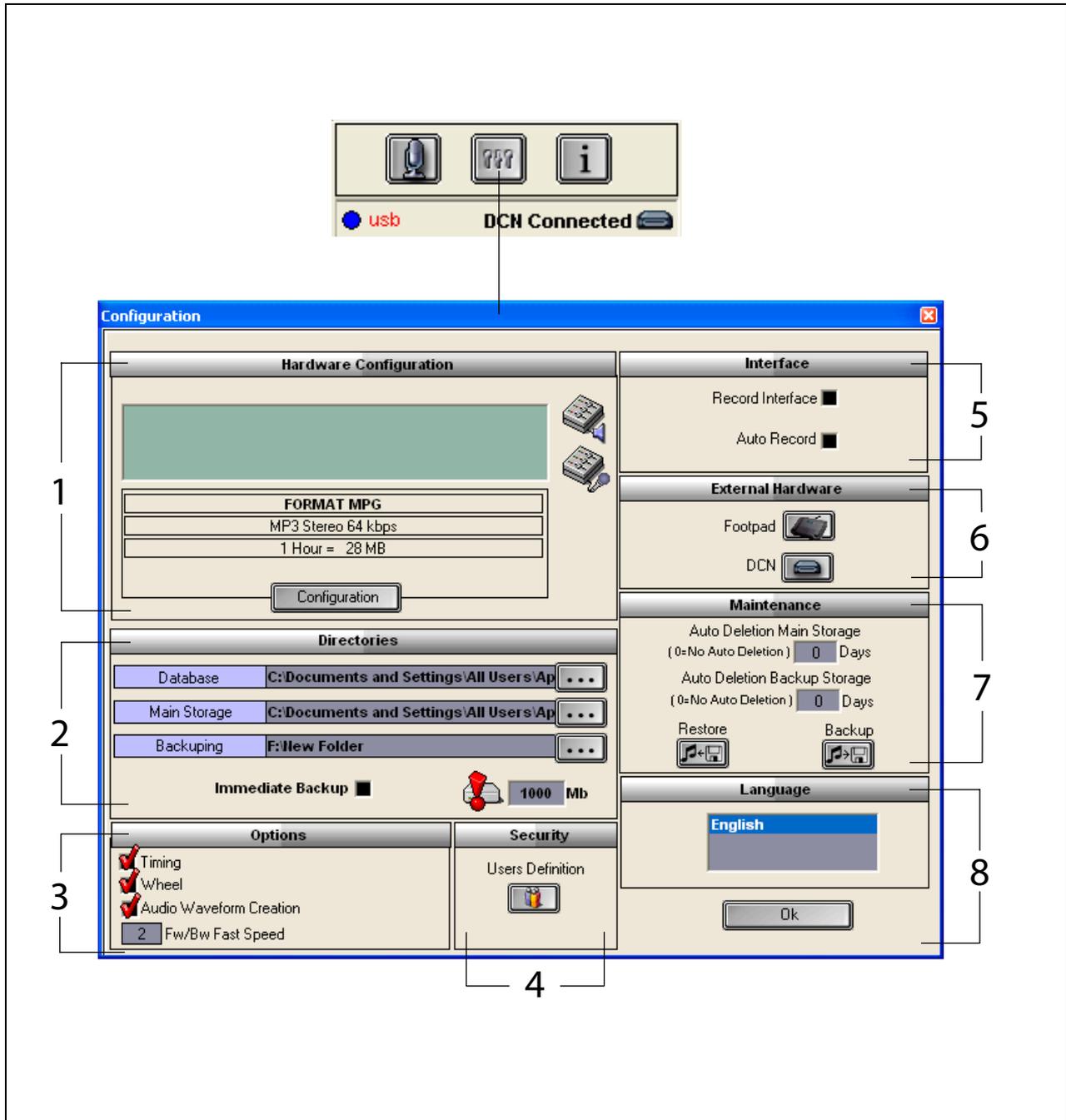


図 2.1 : 構成

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 [ハードウェア構成] セクション (第 2.2 章参照) | 5 [インターフェイス] セクション (第 2.4 章参照) |
| 2 [ディレクトリ] セクション (第 2.3 章参照) | 6 [外部機器] セクション (第 2.5 章参照) |
| 3 [オプション] セクション (第 2.9 章参照) | 7 [メンテナンス] セクション (第 2.6 章参照) |
| 4 [セキュリティ] セクション (第 2.8 章参照) | 8 [言語] セクション (第 2.7 章参照) |

2.2 ハードウェア構成

[ハードウェア構成] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.2 参照)。

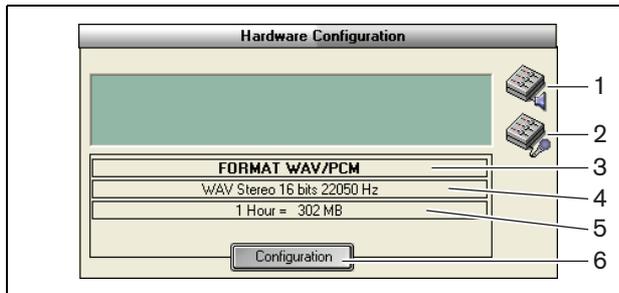


図 2.2 : ハードウェア構成

- 1 ボリュームコントロールボタン - Windows® の [ボリュームコントロール] ウィンドウが開きます。
- 2 録音コントロールボタン - Windows® の [録音コントロール] ウィンドウが開きます。
- 3 オーディオフォーマット・インジケータ - 新しく録音されるオーディオの形式が表示されます。
- 4 オーディオクオリティ・インジケータ - 新しく録音されるオーディオの品質が表示されます。
- 5 ファイルサイズ・インジケータ - 選択されたオーディオフォーマットと音質で約 1 時間録音した場合のファイルサイズが表示されます。
- 6 構成ボタン - [獲得フォーマットの構成] ウィンドウが開きます (図 2.3 参照)。このウィンドウで [ハードウェア構成] の設定を変更できます。

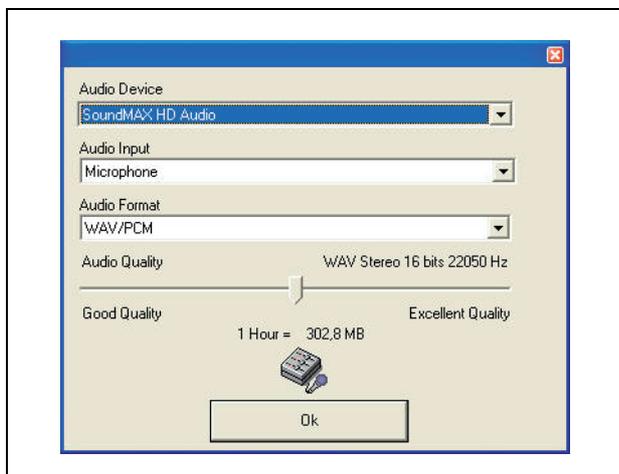


図 2.3 : 獲得フォーマットの構成

2.3 ディレクトリ

[ディレクトリ] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.4 参照)。

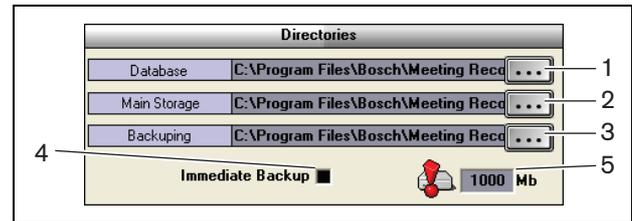


図 2.4 : ディレクトリ

- 1 [データベース] ボタン - アプリケーションデータベース (発言者データベースなど) を保存する場所を選択します。
- 2 [メインストレージ] ボタン - 録音を保存する場所を選択します。
- 3 [アーカイブ] ボタン - データベースのコピーおよび録音を保管する場所を選択します。
- 4 [即時のバックアップ] チェックボックス - 即時バックアップを有効または無効にします。即時バックアップを有効にすると、新しい録音はすべて直ちにアーカイブにコピーされます。



注記

「即時バックアップ」中は、新しく録音を開始することができません。[即時のバックアップ] を無効にすることをお勧めします。

- 5 [保存容量しきい値] - メモリ容量のしきい値を設定します。ミーティングレコーダアプリケーションは、データベースおよび録音に利用できるメモリの容量がメモリ容量のしきい値に達すると、警告メッセージを生成します。

2.4 インターフェイス

[インターフェイス] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.5 参照)。

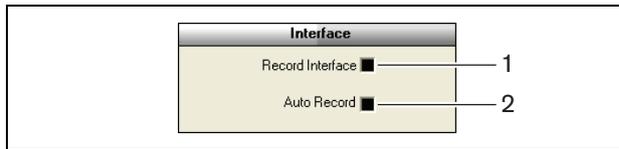


図 2.5 : インターフェイス

- 1 [録音インターフェイス] チェックボックス - すべての Windows® アプリケーションの上部に、大きな Record ボタンを表示したままにするかどうかを選択します。
- 2 [自動録音] チェックボックス - 自動録音を有効または無効にします。自動録音を有効にすると、アプリケーションは自動的に録音を開始し、アプリケーションの起動時に警告音が鳴ります。

2.5 外部機器

2.5.1 概要

[外部機器] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.6 参照)。

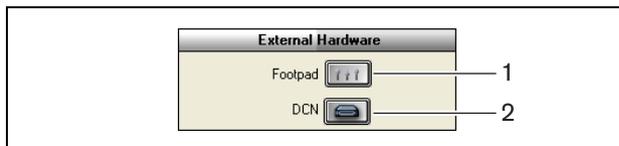


図 2.6 : 外部機器

- 1 [フットパッド] ボタン - [フットパッドの構成] ウィンドウが開きます (第 2.5.2 参照)。
- 2 [DCN] ボタン - [DCN] ウィンドウが開きます (第 2.5.3 章参照)。

2.5.2 フットパッド

2.5.2.1 概要

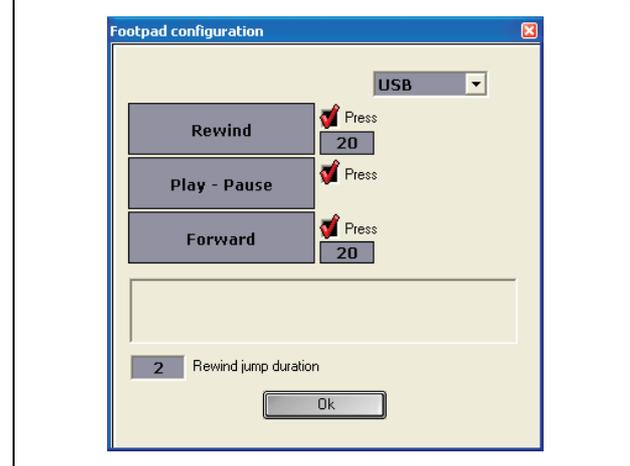


図 2.7 : フットパッドの構成

2.5.2.2 [送り] / [巻き戻し]

フットパッドを使った録音の早送りまたは巻き戻しを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [送り] または [巻き戻し] ボタンをクリックします。
- 2 画面に表示される指示に従います。
- 3 [押す] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 4 [送り] または [巻き戻し] の時間ボックスに、ボタンを押したとき録音自動的に早送りまたは巻き戻しされる秒数を設定します。
- 5 [了解] ボタンをクリックして、[フットパッドの構成] ウィンドウで加えたすべての変更を保存します。

表 2.1 : [送り] / [巻き戻し]

[押す] チェックボックス	内容
オン	<u>[送り] または [巻き戻し]</u> : ペダルを踏むと、踏んでいる間、録音が早送りまたは巻き戻しされます (スピードを設定する方法については、第 2.9 章を参照してください)。
オフ	<u>[送り] または [巻き戻し]</u> : ペダルを踏むと、入力した指定の秒数分だけ、録音が早送りまたは巻き戻しされます。



注記

WMA 形式で作成された録音は、再生スピードを変更できません。

2.5.2.3 再生と一時停止

フットパッドを使った録音の再生または一時停止を設定するには、次の手順に従います。

- 1 [再生 - 一時停止] ボタンをクリックします。
- 2 画面に表示される指示に従います。
- 3 [押す] チェックボックスをオンまたはオフにします。

表 2.2 : [再生 - 一時停止]

[押す] チェックボックス	内容
オン	ペダルを踏むと、録音が再生されます。ペダルを離すと、録音の再生が一時停止されます。
オフ	ペダルを踏むと、録音が再生されます。ペダルをもう一度踏むと、録音の再生が一時停止されます。

- 4 [ジャンプ巻き戻し] ボックスには、一時停止したときに、録音が自動的に巻き戻される秒数を設定します。
- 5 [了解] ボタンをクリックして、[フットパッドの構成] ウィンドウで加えたすべての変更を保存します (図 2.7 参照)。

2.5.3 DCN 接続

2.5.3.1 概要

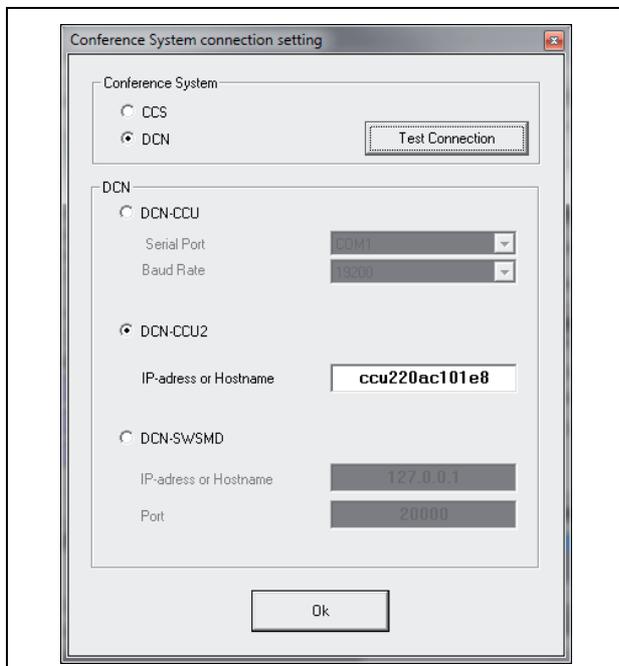


図 2.8 : CCS および DCN 接続設定

2.5.3.2 DCN (W) CCU (B) 接続

DCN (ワイヤレス) システムのセントラルコントロールユニットへの RS232 接続を構成するには、次の手順に従います。

- 1 PC を接続しているセントラルコントロールユニットの RS232 プロトコルポートを、[Open Interface] に設定します。
- 2 ボーレートを 19200 baud に設定します。



注記

セントラルコントロールユニットの RS232 ポートの構成については、『DCN Installation & User Instructions』を参照してください。

- 3 [DCN からの情報を使用] チェックボックスをオンにします。
- 4 PC の RS232 シリアルポートに [COM] を選択し、[19200 baud] を選択します。
- 5 [了解] ボタンをクリックして、変更を保存します。



注記

[テスト接続] ボタンを使用して、接続をテストできます。接続が確立されると、"DCN リンク完了" というメッセージが表示されます。接続が確立されない場合、"DCN とリンクされていません" というメッセージが表示されます。

2.5.3.3 DCN-CCU (B) 2 接続

DCN (ワイヤレス) システムのセントラルコントロールユニットへの IP 接続を構成するには、次の手順に従います。

- 1 [DCN-CCU2] チェックボックスをオンにします。
- 2 接続された DCN-CCU (B) 2 の [IP アドレス] または [ホスト名] を入力します。
- 3 [了解] ボタンをクリックして、設定を保存します。



注記

DCN-CCU (B) 2 を使えば、録音に発言者名を自動的に入力できます。名前は DCN-MR アプリケーションから取得されます。このためには、オープンインターフェイスを備えた DCN システムが必要です。DCN-MR は DCN-CCU (B) 2 に接続します。

2.5.3.4 DCN-SWSMD 接続

DCN-SWSMD アプリケーションへの IP 接続を構成するには、次の手順に従います。

- 1 [DCN-SWSMD] チェックボックスをオンにします。
- 2 [IP アドレス] または [ホスト名] と、DCN-SWSMD アプリケーションのポート番号を入力します。
- 3 [了解] ボタンをクリックして、設定を保存します。



注記

DCN-SWSMD を使えば、録音に発言者名を自動的に入力できます。名前はデレゲートデータベースから取得されます。このためには、DCN-SW、DCN-SWDB および DCN-SWSMD を備えた DCN システムが必要です。DCN-MR は DCN-SWSMD アプリケーションに接続します。

2.6 メインテナンス

[メインテナンス] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.9 参照)。

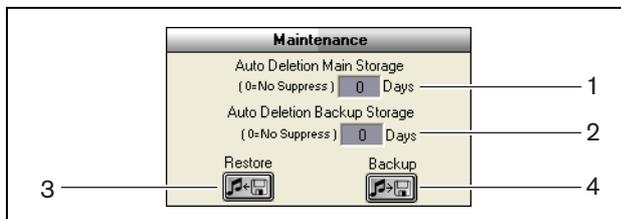


図 2.9 : メインテナンス

- 1 [自動メインストレージ削除] コントロール - 録音を保存してから自動的に削除されるまでの日数を設定します。
- 2 [自動バックアップストレージ削除] コントロール - データベースおよび録音をコピーしてから、それらがアーカイブから自動的に削除されるまでの日数を設定します。
- 3 [元に戻す] ボタン - アーカイブを復元するためのダイアログが開きます。
- 4 [バックアップ] ボタン - データベースおよび録音をすべてアーカイブにコピーします。

2.7 言語

[言語] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.10 参照)。



図 2.10 : 言語

- 1 [言語] コントロール - アプリケーションで表示される言語を設定します。

2.8 セキュリティ

プログラムを不正ユーザーから保護するために、ユーザーアカウントを作成して、権限を割り当てることをお勧めします。

[セキュリティ] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.11 参照)。

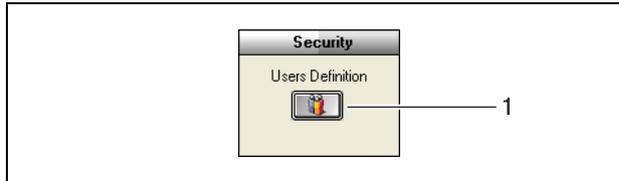


図 2.11 : セキュリティ

- 1 [ユーザー定義] ボタン - ユーザーを定義するダイアログが開きます (図 2.12 参照)。



注記

少なくとも 1 つのアカウントに、すべてのユーザー権限を与える必要があります。このアカウントは、管理者アカウントとして機能します。

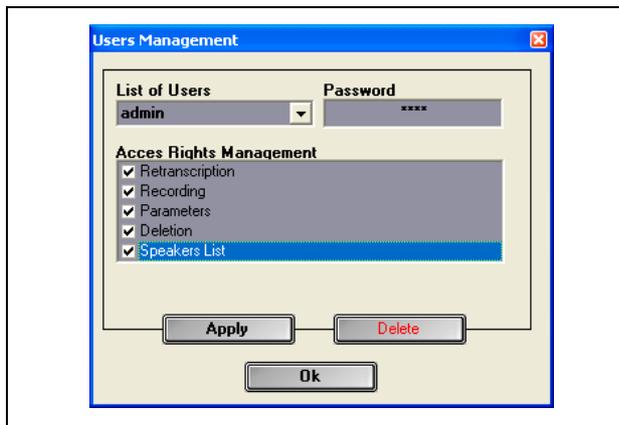


図 2.12 ユーザー管理

次の手順に従います。

- 1 [ユーザーのリスト] に名前を追加します。



注記

パスワードは、大文字と小文字が区別されます。ユーザーを定義しない場合、プログラムがセキュリティで保護されず、パスワードの入力を求める画面は表示されません。

- 2 [パスワード] フィールドに、ユーザー固有のパスワードを入力します。
 - 3 必須の [アクセス権限管理] チェックボックスをオンにします。
 - 4 [申請] ボタンをクリックします。
- > プログラムがユーザーの認証を行います。[了解] ボタンをクリックします。



注記

アクティブなユーザーが削除されると、プログラムは自動的に終了します AB



注記

管理者アカウントのパスワードを忘れた場合、保守パスワードを使ってプログラムを復旧できます。詳細は、第 1.3 章の注記を参照してください。

表 2.3 : ユーザーの権限

ユーザーの権限	説明
再転写	オンの場合、ユーザーはアプリケーションを使って録音を転写することができます。録音することはできません (第 4 章参照)。
録音	オンの場合、ユーザーはアプリケーションを使って録音することができます。録音を転写することはできません (第 3.3 章参照)。
パラメータ	オンの場合、ユーザーは [構成] ウィンドウにアクセスできます (第 2 章参照)。
削除	オンの場合、ユーザーは [ファイル] セクションにアクセスできます (第 3.4 章参照)。
発言者リスト	オンの場合、ユーザーは [発言者] ウィンドウにアクセスできます (第 3.1.2 章参照)。

2.9 オプション

[オプション] セクションには、次のコントロールおよびインジケータが含まれます (図 2.13 参照)。

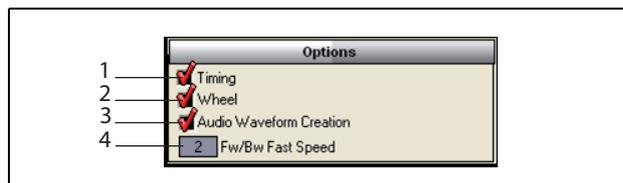


図 2.13 : オプション

- 1 [タイミング] チェックボックス - [ユーザーインターフェイス] の [視覚化] セクションで、タイミング情報を表示または非表示にします (第 3.1 章参照)。
- 2 [回転] チェックボックス - 接続されたマウスのスクロールホイールを使用して、開いている録音をスクロールする機能を有効または無効にします。



注記

この機能は、ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェア側では無効になっています。

- 3 [オーディオウェーブフォーム作成] チェックボックス - [ユーザーインターフェイス] の [視覚化] セクションでオーディオ波形を表示または非表示にします (第 3.1 章参照)。
- 4 [Fw/Bw ハイスピード] コントロール - 録音の早送りまたは巻き戻しで使用される速度を設定します。

3 操作

3.1 概要

3.1.1 ユーザーインターフェイス

[ユーザーインターフェイス]には、次のセクションおよびコントロールが含まれます (図 3.1 参照)。

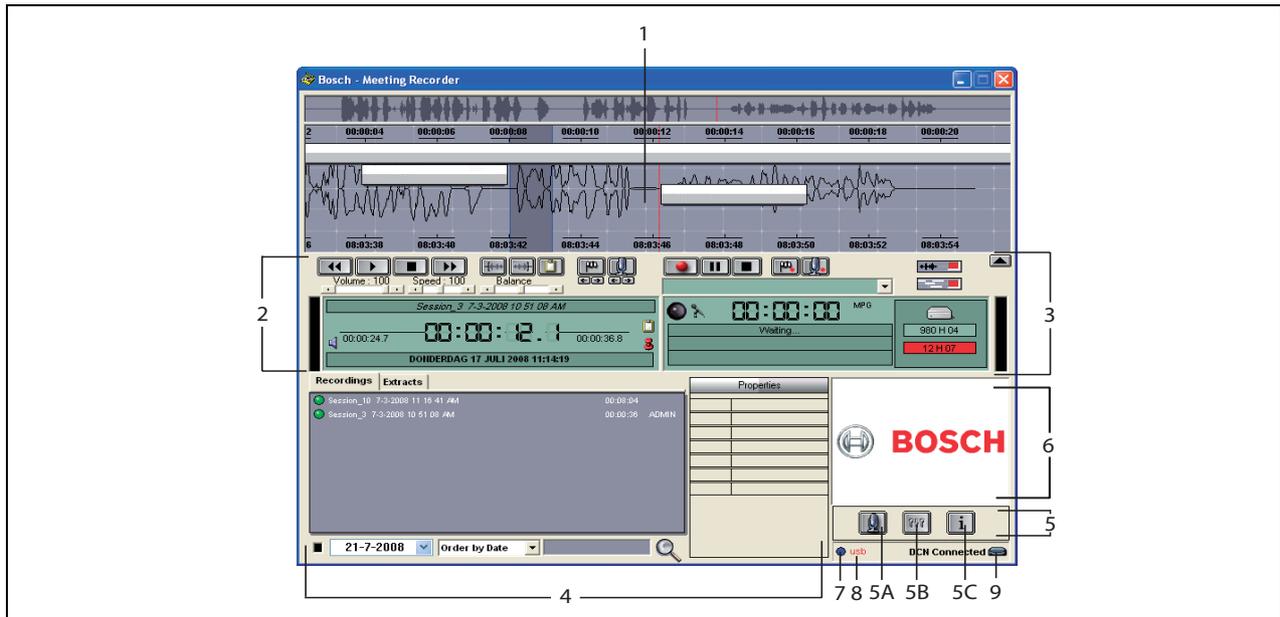


図 3.1 : ユーザーインターフェイス

- 1 視覚化セクション - 発言者名とマーカーの情報とともに、録音を視覚化して表示します。
- 2 再生セクション - 録音を再生および編集したり、録音データベースから抽出(第 3.5 および 3.6 章参照)することができます。
- 3 録音セクション - 録音を実行できます(第 3.3 章参照)。
- 4 ファイルセクション - 録音したファイルまたはディレクトリを表示し、録音データベース内の録音を管理できます。別のファイルを選択すると、そのファイルのプロパティは右側に表示されます。検索機能を使用して、ファイルや録音をすばやく見つけることができます (第 3.4 章参照)。
- 5 構成セクション
 - A) マイクボタン - [発言者] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、録音に発言者名を追加することができます (第 3.2 章参照)。
 - B) 構成ボタン - [構成] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、アプリケーションや接続しているハードウェアの構成を設定できます (第 2 章参照)。

- C) 情報ボタン - [情報] ウィンドウを開きます。[情報] ウィンドウには、ソフトウェアのバージョンやライセンスに関する情報が表示されます。
- 6 インポートウィンドウ - マウスを右クリックするとダイアログウィンドウが開き、JPG または BMP 形式のカスタムイメージをインポートできます。
 - 7 USB ドングル インジケータ - 青色はドングルがフルライセンスを有していることを示します。黄色は限定ライセンスであることを示します (第 1.3 章参照)。
 - 8 USB 接続 - フットパッドが検出されると、「USB」という文字が赤色で表示され、フットパッドが検出されない場合は、この文字がグレーで表示されます (第 1.5.2 章参照)。
 - 9 DCN 接続 - DCN 接続が確立されている場合、「DCN 接続済み」が表示されます。

3.1.2 [発言者] 構成ウィンドウ

[発言者] 構成ウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- 1 [発言者のリスト] セクションでは、発言者を定義します (第 3.2.1 章および第 3.2.2 章参照)。
- 2 [情報] セクションでは、発言者に関する特定の情報を追加します (第 3.2.1 章および第 3.2.3 章参照)。
- 3 [ミーティングリスト] セクションでは、ミーティングを定義または用意します (第 3.2.1 章および第 3.2.2 章参照)。

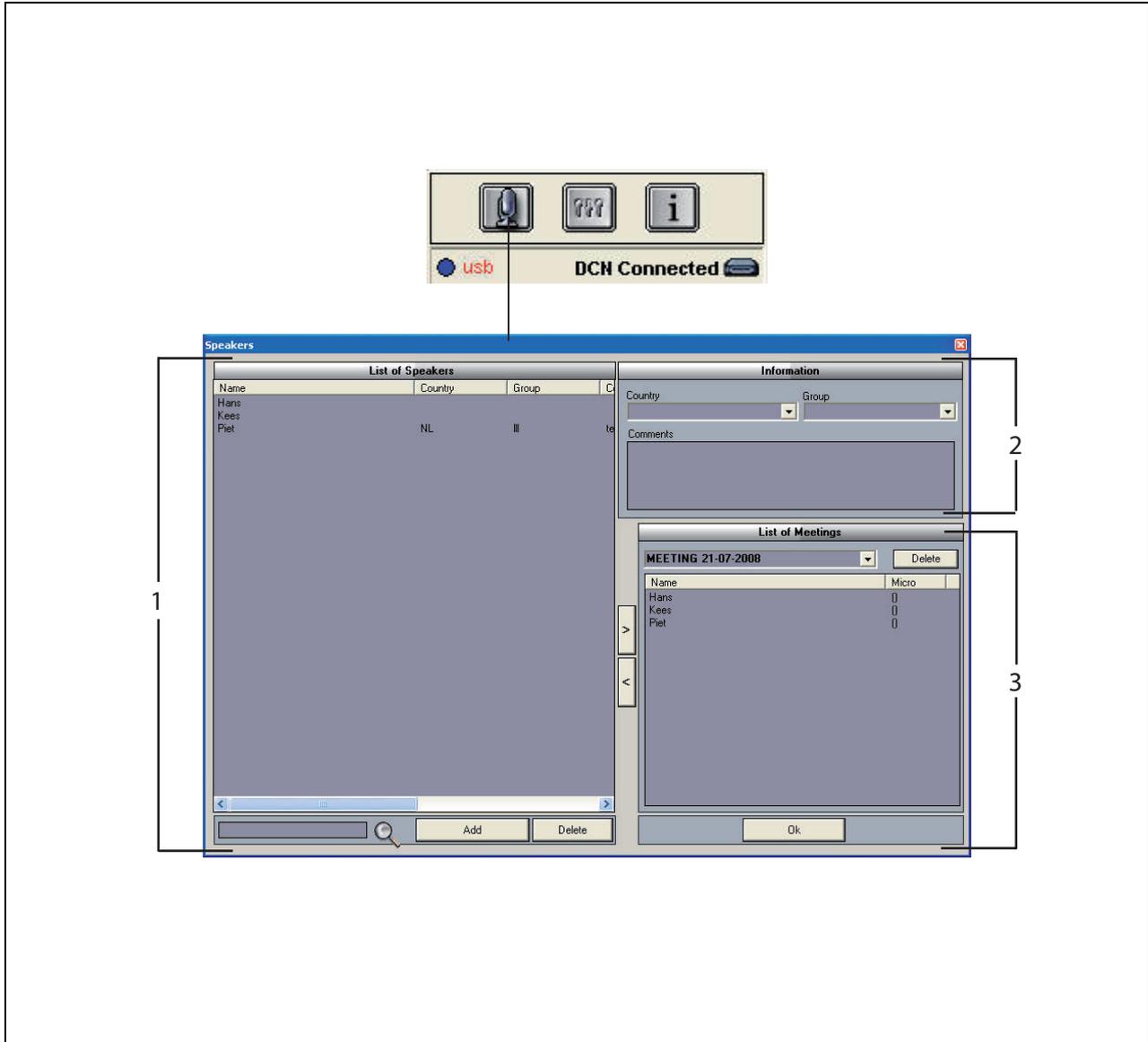


図 3.2 : [発言者] 構成ウィンドウ

3.2 発言者名の録音への手動追加

3.2.1 はじめに

発言者名の録音への手動追加を有効にするには、[ユーザーインターフェイス] の **Playing** (再生) セクションと録音セクションのマイクボタンを使用します。次の手順に従います。

- 1 [発言者のリスト] を作成します (第 3.2.2 章参照)。
- 2 必要に応じて、オプションの情報を追加します (第 3.2.3 章参照)。
- 3 ミーティングを定義または用意します (第 3.2.4 章参照)。
- 4 ミーティングに発言者を追加します (第 3.2.2 章参照)。

録音への発言者名の自動追加を有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ミーティングレコーダソフトウェアを実行している PC が、DCN (ワイヤレス) システムのセントラルコントロールユニット (CCU) に正しく接続されていることを確認します (第 1.5 章参照)。
- 2 [発言者のリスト] を作成します (第 3.2.2 章参照)。
- 3 必要に応じて、オプションの情報を追加します (第 3.2.3 章参照)。
- 4 ミーティングを定義または用意します (第 3.2.4 章参照)。
- 5 ミーティングに発言者を追加します (第 3.2.2 章参照)。
- 6 発言者にマイクを割り当てます (第 3.2.5 章参照)。

3.2.2 発言者リストの作成

次の手順に従います。

- 1 [追加] ボタンをクリックします。
 - > テキストボックスが表示されます。
- 2 発言者の名前を入力して [了解] ボタンをクリックします。
 - > 発言者の名前が [発言者のリスト] に表示されます。



注記

発言者の名前は、検索ボックスに名前を入力して拡大鏡のボタンを押すと、すばやく見つけることができます。

3.2.3 オプション情報の追加

オプション情報を [発言者のリスト] に追加できます。次の手順に従います。

- 1 該当する発言者の名前をクリックします。
 - > 選択した発言者の名前が強調表示されます。
- 2 [情報] セクションの該当するボックスに、必要なオプションの情報を入力します。
 - > オプション情報が [発言者のリスト] に表示されます。



注記

[国名] および [グループ] リストに情報を入力すると、その情報が [発言者のリスト] にも追加されます。もう一度同じオプション情報が必要な場合は、リストから選択することができ、再度入力する必要はありません。

3.2.4 ミーティングの定義または用意

次の手順に従います。

- 1 [ミーティングリスト] セクションでミーティングの名前を入力します。あるいは、
- 2 [ミーティングリスト] セクションで該当するミーティングを選択します。
- 3 [発言者のリスト] で該当する発言者の名前をクリックします。
- 4 [>] ボタンをクリックします。
- 5 [ミーティングリスト] セクションに、選択した発言者が表示されます。



注記

[ミーティングリスト] に情報を入力すると、その情報が [発言者のリスト] にも追加されます。もう一度同じミーティングが必要な場合は、リストから選択することができます。

3.2.5 マイクの割り当て

発言者にマイクを割り当てます。

次の手順に従います。

- 1 アプリケーションを実行している PC が、DCN (Wireless) システムのセントラルコントロールユニット (CCU) に正しく接続されていることを確認します (第 1.5 章参照)。
- 2 [ミーティングリスト] で該当する発言者をダブルクリックまたは右クリックします。
> [マイクのリスト] ポップアップウィンドウが表示されます (図 3.3 参照)。
- 3 該当するマイクをクリックします。
> 選択したマイクが強調表示されます。
- 4 [選択] ボタンをクリックします。
> 割り当てられたマイクは、[ミーティングリスト] の該当する発言者の横に表示されます。

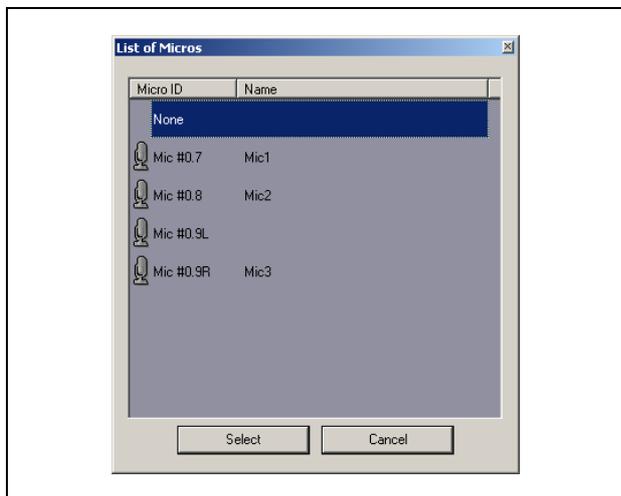


図 3.3 マイクのリスト

3.3 録音

[ユーザーインターフェイス] の録音セクションを使用して録音します (図 3.4 参照)。

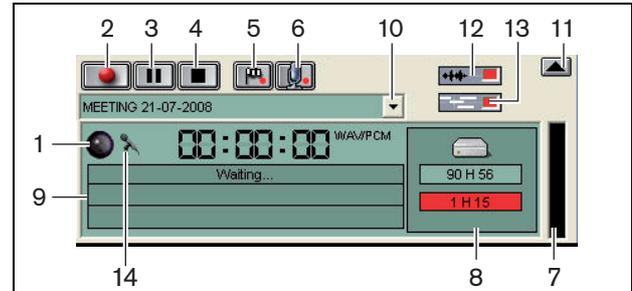


図 3.4 : 録音セクション

- 1 録音インジケータ - 録音のステータスを表示します (表 3.1 参照)。

表 3.1 : 録音インジケータ

色	説明
赤 (点滅)	録音
青	一時停止

- 2 録音ボタン - 録音を開始します。
- 3 一時停止ボタン - 録音を一時停止します。
- 4 停止ボタン - 録音を停止します。
- 5 フラッグの追加ボタン - 録音にカスタムマーカを追加するダイアログが開きます。
- 6 発言者の追加ボタン - 録音に発言者名を追加するダイアログが開きます。
- 7 録音レベルインジケータ - 録音のオーディオレベルを表示します。
- 8 利用可能容量インジケータ - 利用可能な全領域/セットと使用済みの録音容量を表示します。
- 9 ステータス・メッセージ - 現在のステータスを表示します。
- 10 ミーティング選択ボタン - ミーティングリストを表示します。
- 11 Visualization (視覚化) 画面 - 画面を表示または非表示にします。
- 12 Audio Waveform (オーディオ波形) ボタン - オーディオ波形を表示または非表示にします。
- 13 発言者名ボタン - 発言者の名前を表示または非表示にします。
- 14 録音コントロールボタン - Windows® の [録音コントロール] ウィンドウが開きます。

3.4 録音の管理

3.4.1 はじめに

[ユーザーインターフェイス]のファイルセクションを使用して、録音を管理します。それぞれの録音、ディレクトリ、絞り込みにより異なるオプションが選択できるコンテキストメニューが用意されています(図 3.5 参照)。

3.4.2 録音のマーキング

コンテキストメニューの [マーク] アイテムを使用して、保存した録音をマーキングできます (図 3.5 および表 3.2 参照)。

表 3.2 : ユーザーの権限

ユーザーの権限	説明
発言 1	録音
発言 2	発言者名を追加した録音
発言 3	転写済みの録音

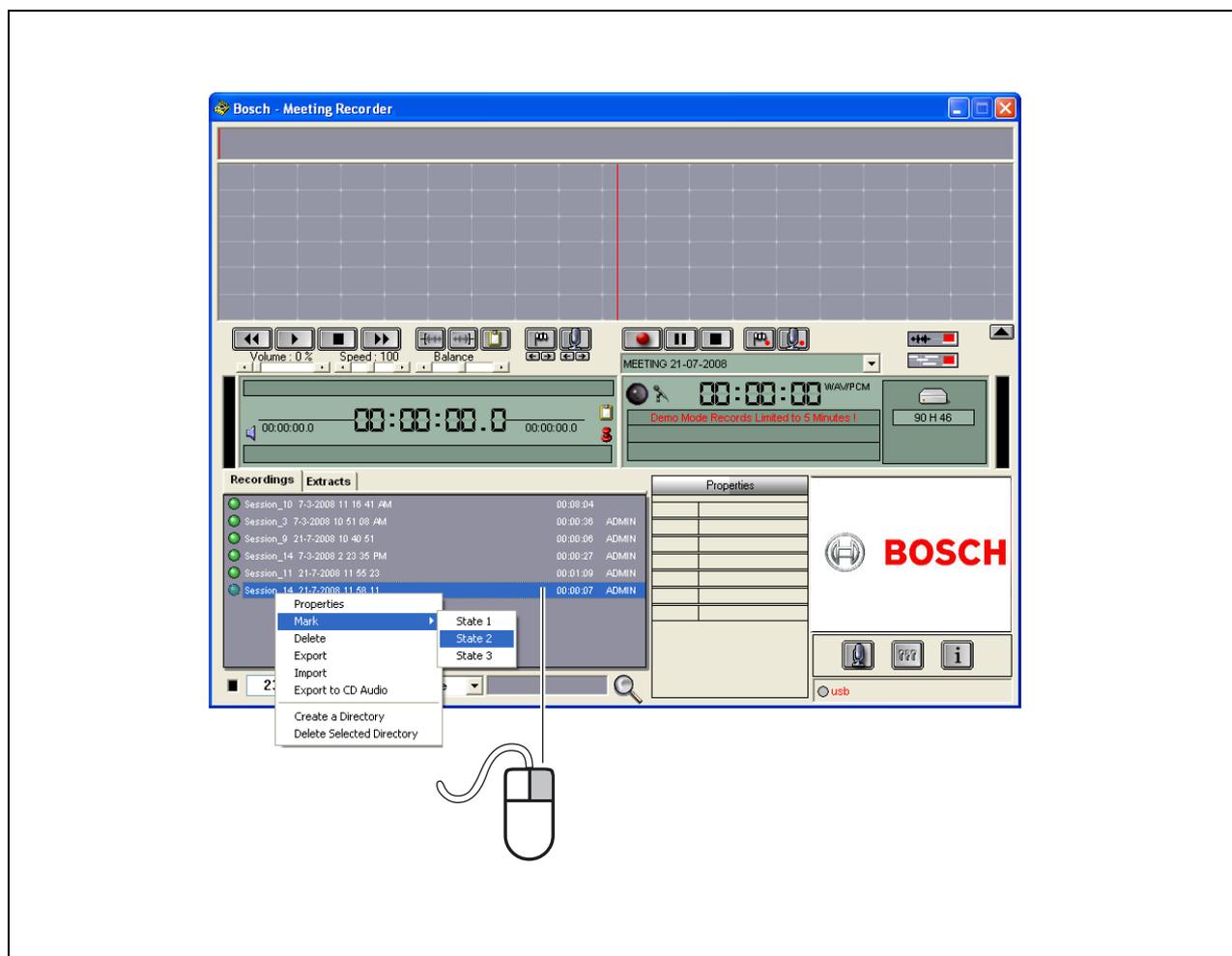


図 3.5 : ファイルセクション

3.5 録音の再生

[ユーザーインターフェイス] の Playing (再生) セクションを使用して、録音を再生します (図 3.6 参照)。

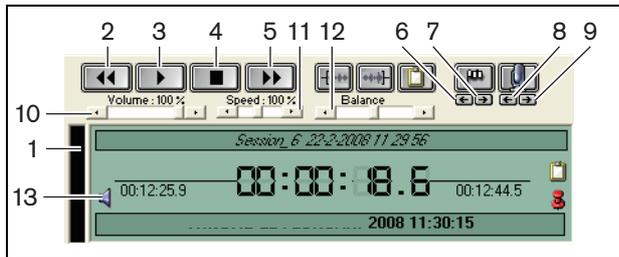


図 3.6 : Playing セクション (再生時)

- 1 Recording level インジケータ - 録音レベルを表示します。
- 2 巻き戻しボタン - 録音を巻き戻しします。
- 3 再生ボタン - 録音済みのファイルを開始します。



注記

再生スピードを調節している場合：マウスを右クリックすると、調整したスピードで再生されます。マウスを左クリックすると、通常のスPEEDで録音が再生されます。接続しているフットパッドは、常にこのスピードコントロールに反応します。

- 4 停止ボタン - 録音を停止します。
- 5 早送りボタン - 録音を早送りします。
- 6 前のマーカーボタン - 録音内の前のマーカーまでジャンプします。
- 7 次のマーカーボタン - 録音内の次のマーカーまでジャンプします。
- 8 前の発言者ボタン - 録音内の前の発言者名までジャンプします。
- 9 次の発言者ボタン - 録音内の次の発言者名までジャンプします。
- 10 ボリュームコントロール - 再生中の音量を調整します。
- 11 スピードコントロール - 再生のスピードを調整します (WMA 形式のオーディオファイルでは使用できません)。
- 12 バランスコントロール - 右と左のチャンネル間でオーディオレベルを調整します。
- 13 ボリュームコントロール - Windows® の [ボリューム コントロール] ダイアログボックスが開きます。



注記

録音が 2 言語の場合、発言者と同時通訳者の両方のオーディオを聞くことができます。フットパッドを PC に接続している場合、フットパッドを使用して録音を再生できます (転写したい場合など)。

3.6 録音の編集

[ユーザーインターフェイス] の Playing (再生) セクションを使用して録音を編集します (図 3.7 参照)。

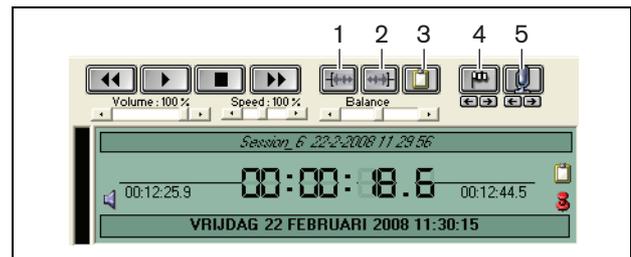


図 3.7 : Playing セクション (編集時)

- 1 Start-of-selection ボタン - 選択の開始場所をマークします。
- 2 End-of-selection ボタン - 選択の終了場所をマークします。
- 3 Extraction ボタン - 選択した箇所を抽出します。抽出箇所は、自動的にファイルセクションの [抽出] タブに表示されます (第 3.4 章参照)。
- 4 巻き戻し中にフラッグをつけるボタン - 録音にカスタムマーカーを追加するダイアログが開きます。
- 5 発言者の追加ボタン - 録音に発言者名を追加するダイアログが開きます。

4 転写

4.1 はじめに

転写とは、発言された言語ソース（または録音）を文書に変換することを指します。DCN ミーティングレコーダアプリケーションソフトウェアは、録音の転写を容易にするために設計されており、テキストエディタを開いて、文字を入力することができます。テキストエディタの上部には、関連情報が表示されます。転写フットパッド (DCN-MRFP) を使用することにより、転写者は両手を使って録音を自由にコントロール（録音の再生、一時停止、早送りおよび巻き戻し）ができます。

4.2 設定と前提条件

転写には、次の設定および前提条件が適用されます。

- 付属の USB ドングルを接続する必要があります（第 1.3 章 参照）。
- 転写者は、適切なユーザー権限である再転写権限を持っている必要があります（第 2.8 章 参照）。

4.3 録音の転写

[ユーザーインターフェイス] の Playing (再生) セクションを使用して、録音を転写します（図 4.1 参照）。

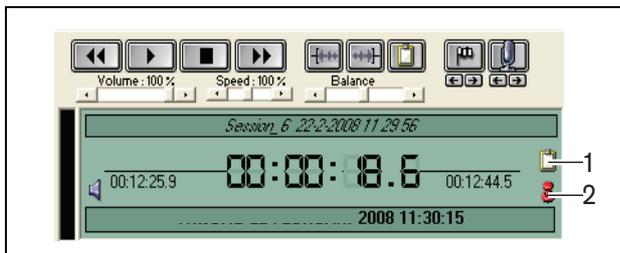


図 4.1 転写

- 1 転写モジュール - 録音に埋め込まれている名前を表示したウィンドウが開きます。
- 2 転写タイムピン - 録音の日時情報を表示したウィンドウが開きます。

次の手順に従います。

- 1 フットパッドを PC の空いている USB ポートに接続します。
- 2 テキストエディタを開きます。
- 3 ミーティングレコーダアプリケーションを起動します。



注記

[ユーザーインターフェイス] の Playing (再生) セクションのボタンは、フットパッドよりも優先されます。

- 4 転写する録音を検索します。
 - 5 対象の録音を開きます。
 - 6 転写タイムピンボタンをクリックします（図 4.1 参照）。
- > 録音の [日時情報] ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、いわゆるオントップウィンドウで、テキストエディタの前面に表示されます。
- 7 発言者名が録音に追加されている場合、転写モジュールボタンをクリックします（図 4.1 参照）。
- > [発言者名の情報] ウィンドウが開きます。このウィンドウには、追加された発言者名、各発言者の開始時刻と停止時刻、および継続時間が表示されます。このウィンドウは、いわゆるオントップウィンドウで、テキストエディタの前面に表示されます。
 - 8 発言者名が録音に追加されている場合、Visualization (視覚化) セクション（図 3.1 参照）を右クリックしてメニューから [テキスト転写モジュール] を選択することもできます。

> [発言者名の情報] ウィンドウが開きます。このウィンドウには、追加された発言者名、各発言者の開始時刻（[タイミング]）、および発言時間（[継続時間（秒）]）が表示されます。
 - 9 発言者名を選択して、録音を選択します。

> 録音が即座にこの位置に移動します。



注記

発言者情報をテキストエディタまたは Windows® Excel にエクスポートするには、[発言者名の情報] ウィンドウを右クリックして、ダイアログウィンドウを開きます（第 3.4 章 参照）。



注記

WMA の録音形式は、一部のサウンドトラックのレベルが表示されないため、利便性に問題がある場合があります。また、再生セクションのスピードコントロールが機能しません。

© Bosch Security Systems B.V.

データは予告なしに変更する場合があります。

2011年10月



BOSCH